

全米熱帯まぐろ類委員会 ^{アイエーティーティーシー} (I A T T C) 第 101 回会合 (年次会合) の結果について

1 日時・場所

8月7日(月)から11日(金)(現地時間)まで、カナダ(ビクトリア)で開催。

2 出席国・地域

日本、米国、カナダ、EU、中国、韓国、台湾、フランス(海外領土)、メキシコ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、コスタリカ、コロンビア、ニカラグア、パナマ、バヌアツ、ベネズエラ、ベリーズ、ペルー(20ヶ国・地域)

(他、関係する国際機関、NGOの代表等が参加)

3 我が国出席者

福田水産庁資源管理部審議官(我が国代表)ほか、水産庁、外務省、国立研究開発法人 水産研究・教育機構及び業界関係者。

4 結果概要

(1) 太平洋クロマグロ

本年7月に開催されたWCPFC北小委員会・IATTC合同作業部会で合意された暫定的な管理ルール(資源回復目標(初期資源量の20%)達成後、新たな管理方式の策定までの間に適用するもので、資源が初期資源量の20%以上に維持される範囲で、管理措置の変更が可能)を採択。

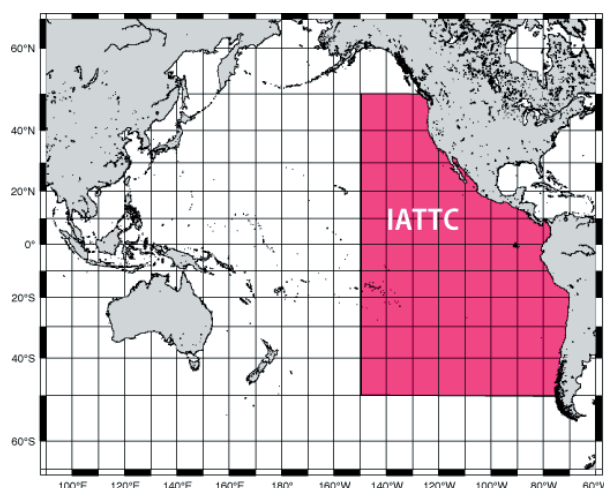
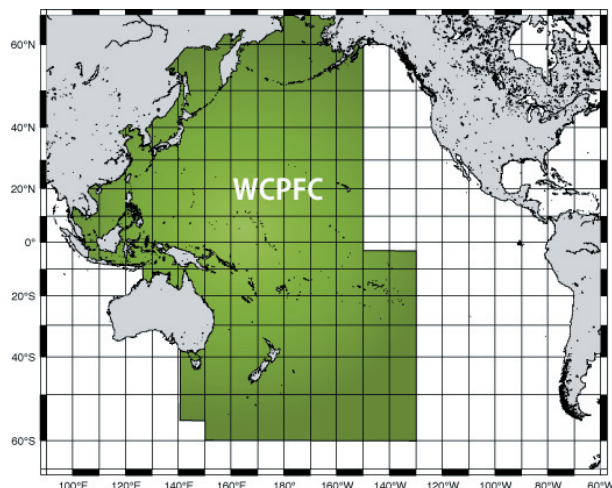
(2) 北太平洋ビンナガ

中長期的に適用される北太平洋ビンナガの管理枠組みに関する具体的な漁獲制御ルールを含む管理方式を採択。

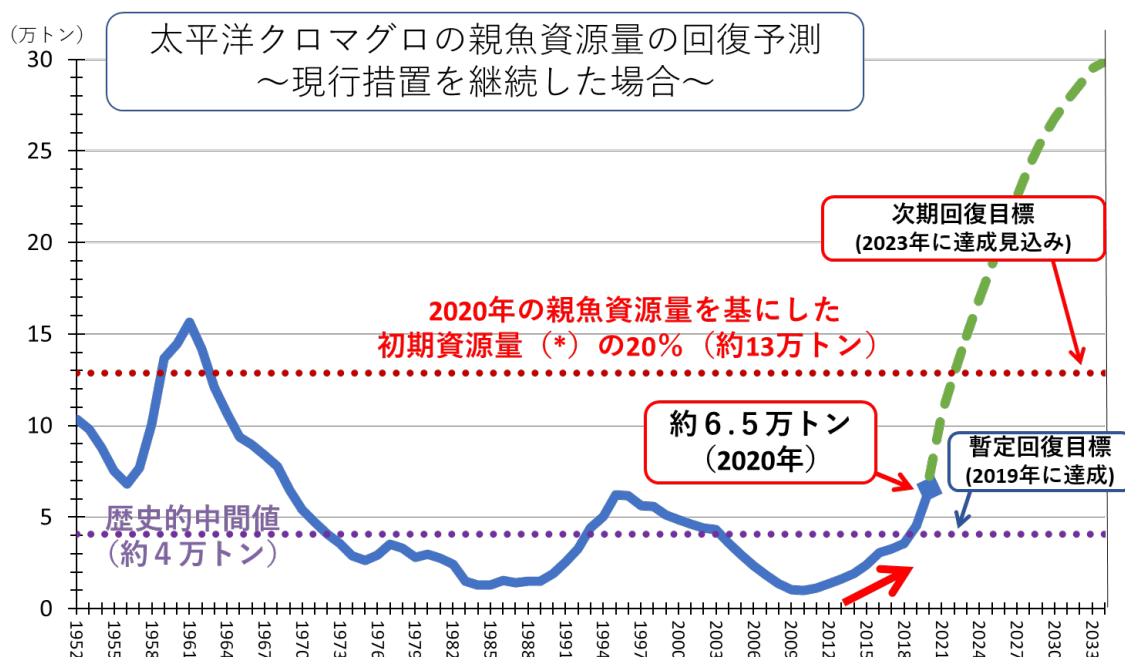
(3) メバチ・キハダ

現行措置(2024年まで有効)の実施状況のレビューが行われるとともに、まき網漁業におけるメバチ漁獲量の正確な把握のための管理プロジェクトの継続が承認された。

【参考 1 WCPFC と IATTC】



【参考 2 最新の資源評価の結果】



(*) 初期資源量：資源評価上の仮定を用いて、漁業が無い場合に資源が理論上どこまで増えるかを推定した数字。かつてそれだけの資源があったということを意味するものではない。

資料：ISC22レポート（2022年）

【参考3 メバチ・キハダ資源管理措置の概要】

(1) まき網漁業

	2021 年以前	2022-2024 年
全面禁漁期間	72 日間	<u>漁船毎に前年のメバチ漁獲量に応じて禁漁期間を延長</u> (※1) 1200 トン以上： 82 日間 1500 トン以上： 85 日間 1800 トン以上： 88 日間 等
集魚装置 (FAD) の使用数 (一隻当たり)	450 個 (※2)	2022 年：400 個 2023 年：340 個 2024 年：340 個

(※1) 平均のメバチ漁獲量が 1,200 トンを超過していたまき網漁船について、一律 80 日間の禁漁期間。

(※2) 漁船の大きさ別に上限が設定されており、「450 個」は最も大きい漁船の区分の上限。

(2) はえ縄漁業 (※変更なし)

メバチの漁獲枠の設定 (我が国漁獲枠 32,372 トン/年)

【参考4 IATTC の太平洋クロマグロの漁獲枠 (2 年間分)】

	2021 年以前	2021-2022 年 (※)	2023-2024 年
全 体	6,600 トン	7,295 トン	7,990 トン
(うちメキシコ)	6,000 トン	6,556 トン	6,973 トン
(うち米国)	600 トン	739 トン	1,017 トン

(※) 増枠が適用されたのが 2022 年からであるため、「2021-2022 年」の漁獲枠は、「2023-2024 年」よりも少ない。